

平成19年度病害虫発生予報第4号(7月予報)

今月のトピックス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

マデイラコナカイガラムシ(果樹・野菜・花卉)

学名 : *Phenacoccus madeirensis*



生態と被害

雌成虫は体長4-5mm、黄褐色、全体を白い粉状のロウ質分泌物で薄く覆われる。きわめて広食性の種でマンゴー、ナス、ハイビスカスなど果樹、野菜、花卉を加害する。多発すると吸汁によって生育が妨げられ、また排泄物にすす病が発生し、果実を汚すほか、葉では光合成阻害が起こる。日本では15科25種の植物が記録されている。年に数世代発生するが、発生は不規則で、年間を通じて幼虫から成虫までの各態がみられる。1980年代に小笠原諸島、沖縄県に侵入した種で、急激に分布を拡大させ、これまで鹿児島県その他、高知県等の施設栽培で発生が確認された。

☆ 予報の見方 ☆

- 1) 発生予察情報は、前月の調査に基づき発生程度が「並」以上の病害虫を中心に掲載しています。「やや少」以下の病害虫については通常掲載していません。
- 2) 「発生程度」は平年との比較を示しています。そのため、毎年その月で高い数値が続いた場合には、その月の「発生程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にしてください。